

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 森蔵の家		
所在地	広島県呉市倉橋町11777番地 (電話) 0823-54-2150		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3473100562&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活できること、地域の住民と交流していくを目標としています。利用者がその人らしく生活できるよう、職員一人一人日々取り組んでいます。また、林医院からの訪問診療、訪問看護により、適切な医療が受けれるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、倉橋島の南端、海沿いの歴史ある町の中心部に在り、大正ロマン溢れる木造二階建ての洋館で、天井まで伸びたガラス窓は長い歴史とその繁栄ぶりが感じられるとともに古きよき時代の郷愁と哀歓が利用者・家族に落ち着きを与えている。以前は、運営母体の病院として建てられたものを、地域の要望を受けグループホームとして改修し開設されたが、老朽化に伴い来年四月新たに近隣地区へ移転開設の予定である。人情味溢れ、純朴な職員各位は「笑顔で挨拶」を理念に掲げ、地域に溶け込み、利用者本位の支援に取り組まれている。又、管理者は看護師資格を有し、法人母体の医療支援を基盤として医療・介護一体の各種支援を重視し、高齢化した利用者支援に当っており、管理者の下で全職員一体となって支援に取り組んでいる様子が伺える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の人々との交流を図り、地域住民と利用者がお互いに触れ合うことのできる生活環境の場にしていけるように心掛けています。	法人母体の統一理念を踏まえ、事業所独自の理念を「笑顔で挨拶」と定め、リビング等に掲示されている。又、水曜日の朝、全職員で理念を唱和し、日々の業務に理念が実践されるよう努められている。	理念を掲示し、全員で唱和する事でその徹底を図られているが、理念を実現する為に、実践目標・重点事業方針等を職員間で話し合い、年間目標・月間目標を設定し、具体的な項目を達成する事により、理念を具現化される事を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の人々との交流を図り、地域の行事にも参加しています。また、地域の住民に積極的に挨拶をするように心掛けています。	地域の秋祭りに積極的に参加したり、自治会に加入し地域住民の方々と種々交流がなされ、事業所は地域の一員として溶け込まれている。更に管理者が主体となり「庵遊会」と称するサークルを立ち上げ、近所の銭湯で、住職の法話に耳を傾けたり・三味線の演奏・ひよっこ踊り等々住民と一体になり、盛んな交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の参加者、近所住民など地域の人々との交流を図ることで、認知症の人々の理解、支援を頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、老人クラブ会長、女性会会長に参加してもらい、どんなことが入居者に喜ばれるかなど、助言を聞き、実践に努めています。	運営推進会議は定期的開催され、メンバーは住民代表・民生委員・行政担当者等の参加を見ているが、利用者及び利用者の家族の参加がないのが、事業所運営に少なからず弊害を及ぼしていると思われる。従って、今後あらゆる機会（特に来春の事業所新築・移転）を活かして、さらなる家族の参加・巻き込みが必要と思われる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	呉市福祉保健課、介護保険課、及び介護相談員のひと話しあい、助言などを頂いています。	市町担当者からは、運営推進会議や折々に助言・指導を受けたり、市が主催する「認知症家族の会」にも参加する等、行政担当者との密接な協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職場内で研修を行い、身体拘束の弊害を理解し、また、玄関の施錠も日中は行わず、利用者が心地よい雰囲気でも過ごせるように取り組んでいます。	高齢者の権利擁護・身体拘束に関する勉強会を定期的に事業所内で実施し、身体拘束マニュアルを全職員が周知徹底するよう努められているが、玄関の施錠等について、何故施錠を必要とするのか？原因を分析・追求し、その対処ときめ細かな状況把握により、利用者の自由な暮らしを支援できるよう工夫することが必要と思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職場内で研修を行い、虐待は人権侵害にあたることを理解し、虐待は刑事罰にあたることを徹底し、虐待のおこらないように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に参加し、権利擁護に関する制度の理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約にあたっては、利用者、ご家族に十分な説明を行い、疑問、不安がなくなるように、誠実に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、利用者、ご家族からの要望、意見、苦情などに耳を傾け、利用者中心、ご家族中心の施設となるように取り組んでいます。	家族の面会や運営推進会議の参加が少なく、一部に固定しているため、意見や要望を聴く機会が稀である。事業所としては定期的に写真（日々の生活ぶりを写したもの）と月間通信を送付したり、電話による近況報告を行い、要望・意見の収集に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの申し出、管理者からの申し出により、随時、運営に関する、意見、助言を聞くように検討会を開催するように努め、共同生活の向上に努めている。	事業所の雰囲気は、和気あいあいとしていて、職員の意見や提案はその都度話し合われ処置されている。特にレクリエーションに関する意見は活発に提案される様子が伺える。今後は介護技術の向上・知識の習得について、定期的な会議・研修会を開催し、職員の積極的提案により、更なるケア・技術の向上に努める必要があると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、随時、施設を訪問しており、職員の意見などを聞き、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修には、勤務扱いで研修に行けるようにしている。研修費、交通費も支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の事業所との交流を促しており、自己研修という形で、サービスが向上していくように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人、ご家族とよく話し合い、不安などがないように、信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、ご家族とよく話し合い、不安などがないように、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族とよく話し合い、様々な提案をさせてもらい、本人、ご家族にとって、よりベターなサービス利用に努めている。グループホームでは困難と判断した場合は、よく話し合って、法人内の介護老人保健施設など紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションを大切にし、利用者の気持ちを理解するように努めることで、家庭での生活に近い生活環境の場を築くことができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にししながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コミュニケーションを大切にし、利用者の気持ちを理解するように努めることで、家庭での生活に近い生活環境の場を築くことができるように努めている。そして、ご家族に安心していただけるように努めている。ご家族の面会時は、現在の状況など説明し、いい人間関係が保たれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人、ご家族から、過去の生活歴を聞き、利用者の生活が入居することで途切れないように努めている。また、ご家族との面会や外出などができるよう努めている。	利用者の高齢化及び地域の過疎化に伴い、馴染みの人や場所が数少なくなり、昔通ったお店や友達の家を訪問する事が困難になってきている。従って、数は少なくなってきたが、友人への手紙や電話を活用し、関係が途切れないような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事、おやつ、音楽療法、レクリエーション、行事などを通じて利用者とのコミュニケーションを図り、デイルームに出て、利用者同士が関わりを持てるように支援している。。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、利用者、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、相談、支援などに努めている。入院された場合など、面会に行き、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを大切にし、利用者の気持ちを理解し、家庭的な雰囲気の中での生活環境に近づけるよう努力している。感情表出ができるようにコミュニケーションを図っている。	利用者の多くは言葉少なく、余り表情がないので、毎日のかかわりの中で気づいた事、その時々言葉や表情・目の動き等から真意や意向を汲み取るよう努め、困難な場合は本人本位の支援に取り組むよう努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及びご家族から、これまでの生活歴の把握に努めると同時に、日常生活における会話の中から、利用者が喜ばれる暮らし方の実現に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の観察、コミュニケーションを通じて、また、職員間で話し合い、利用者の暮らしの現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、ご家族、職員と話しあいをして、意見、アイデアを取り入れている。それを、現状に即した介護へと結びつけている。</p>	<p>介護計画は、先ず計画作成担当者が計画のたたき台を作成し、それを基に職員で話し合い、全職員の意見が反映された介護計画が作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>申し送りノートに記録し、情報の共有に努めている。また、職員の申し出により、カンファレンスなどを開催している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人、ご家族とコミュニケーションを大切にし、柔軟な支援ができるよう努力している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>社会福祉協議会と連携し、かけはし利用などをして支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>法人内の林医院からの訪問診療のほか、必要時、適切な医療が受けられるように支援している。また、健康に支障がみられた場合は、ご家族に報告している。</p>	<p>法人母体の医療機関から週3回医師の回診があり、利用者全員の主治医となっている。又、必要に応じて専門医や希望の病院の受診にも、臨機応変に対応されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師、看護職員と随時連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、職員が面会に行き、安心して療養できるように支援している。また、退院し、再入居に備えて、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、ご家族、医師とで、十分な話し合いをしている。また、職員全体で方針を共有した介護の実践に努めている。	基本的に、重度化や終末期における事業所の方針としては、医療体制が充実した母体法人の関連施設への移送を説明している。その時期が近付いた時は、改めて利用者・家族・医師の意見を基に出来る限り希望に沿うよう努力が払われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場内で、誤嚥、転倒など、急変に即した勉強会をしている。林医院からの訪問診療、訪問看護時、医師、看護職員からの適切な助言、指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内で話し合いをしたり、職場内で研修をしている。また、地域の自治会、消防団とも日頃から、挨拶などをし、いつでも協力していただけるように心掛けている。運営推進会議にも参加していただき、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防訓練を実施し、初期消防大会にも管理者が毎回出席している。又、当地域では火災時に近隣住民が協力し合い消火活動を行う事が申し合わされている。加えて、日頃から地域の消防団の方々と親しく交流し、強い協力関係が築かれている。	当事業所の構造及び地域の道路事情(狭い路地が複雑に入り組んでいる)等を考えると、消防車は事業所近辺に近寄れず、消火・避難は困難な状況にあるので、職員の役割は勿論、近隣住民の役割等、詳細な役割分担表等作成し明示すると共に、夜間の対応訓練や非常時の訓練を繰り返し実行される事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重した言葉かけ、態度などきちんとできるように日頃から話し合いをしている。利用者の尊厳を尊重した介護を心掛けている。また、個人情報についても、外部にもれないように全職員が徹底している。	利用者の人格を尊重し、言葉づかいは十分注意を払い、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮がなされている。又、個人情報の取り扱いやプライバシーの保護についても、十分な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の希望や思いを言えることができる雰囲気作りに努めている。意志表示が困難な場合は、表情などから感情をくみとり、生活支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一週間の予定、一日の日課など決めてはいるが、利用者の希望にそった支援をしている。一人一人の生活リズムを配慮し、ゆったりした環境で生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者一人一人の応じた身だしなみ、おしゃれができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事については、利用者の好みをうかがい、行事食など作っている。また、利用者の能力に応じて、食事の準備、味付けなどをしてもらっている。	利用者の体力低下により、味付け程度しか出来ないため、基本的には母体法人から配送される食材を事業所で調理し、毎水曜日の昼食のみ皆の希望を聞き食事の用意がされている。又、七夕・クリスマス等の行事食を取り入れ、食事が楽しめるよう支援されている。	食事を楽しむ為には、味は勿論のこと、香り・見栄え等、五感を働かせながら楽しむものと思われる。従って雰囲気（例えば軽い音楽を流す等）や机と椅子のバランスをお一人おひとり調整する等、きめ細かく配慮された食卓を囲む姿が見えるよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士による献立により食事を作っている。水分も利用者の状態に応じて摂取できるよう努めている。食事の摂取量を把握し、食事形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きや入れ歯の洗浄を行っている。自分でできる利用者の場合、声かけや見守りをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄、リハビリパンツの利用など、利用者の自立に向けた排泄の支援を行っている。自尊心を傷つけないように配慮している。	利用者の排泄については、お一人おひとりの排泄パターンや習慣・時間帯の把握に努め、トイレ誘導やリハビリパンツの活用等により排泄の自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	果物、水分補給のほか、適度な運動に向けての支援をしている。食事、おやつは食堂に出てきてもらい、ダイルームでのレクリエーションなど身体を動かすことなど積極的に行っている。また、毎日、排便チェックを行い、必要時、緩下剤で排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、一週間の予定で決めてはいるが、本人の体調や希望を考慮した入浴支援をしている。入浴を楽しんでもらうよう心掛けている。	週二回、朝十時～午後三時の入浴が基本であるが、浴室が二カ所あるので、希望により毎日入浴も可能で、たっぷり時間をかけて入浴を楽しむよう支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の気持ちを大切に、自由に過ごしてもらっている。安らぎのある雰囲気作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	林医院からの訪問看護職員より、その都度処方される薬について説明を受けている。また、職員が内服の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	喜びのある一日が過ごせるよう、音楽療法、劇などのレクリエーションをしている。また、一人一人の能力に応じて、食事の準備など役割を担ってもらっている。レクリエーションに参加は促しているが、無理強いしないよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のいい日は、利用者と一緒に散歩、買い物にしている。また、ご家族と一緒に外出してもらおうなどの支援をしている。	利用者の高齢化・重度化が進み、外出希望が極めて少ない状況下、利用者の体調を考慮しながら、近くの海を見たり、商店や町内を散歩したり、時として母体法人が所有する能舞台のある広場に出かける等の外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と話しあい、本人が小遣いをもてるようにしている。ただし、利用者の認知状況も考慮し、困難であれば、事業所で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話など、通信の自由ができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダイルームといった共用の空間は、利用者が気持ちよく過ごすことができるよう清潔にし、日光、照明により適切な光を取り入れている。また、季節感のある物を飾って、落ち着けるように配慮している。	静かに落ち着ける雰囲気の間と、天井が高く、明るく日の当たる居間と二カ所の居間があり、季節に合わせた生け花やクリスマス飾り、正月飾り等さりげなく季節感が感じられ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ダイルームが2か所あり、本人の思いを聞き、どちらでも過ごせるように支援している。家庭的でくつろいで過ごせる空間となるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人、ご家族と話しあって、普段自宅で使用していたものを自由に持ち込めるように支援している。利用者が大切にしていたものに囲まれ、その人らしい居心地のいい居室作りに努めている。	仏壇・箆笥・テレビ等、利用者の好みの物、使い慣れたものが自由に持ち込まれ、各部屋其々自分の部屋として居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者が安全で自立した生活が過ごせるよう、手すりを備えるなどの環境を整えている。また、本人の安全を考慮し、手をもって一緒に歩行するなどしている。利用者の状態が変わったときなど、職員間で話し合い、対策を講じるなどの工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム森蔵の家

作成日 平成 23 年 12 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所の理念（笑顔で挨拶）を職員全員が認識して動いていない。	毎月、職員で話合う。	職員で話合う機会を通じて、理念を達成するための短期目標を設定し、理念を具現化していく。	6か月
2	40	利用者にとって、食事を楽しめる工夫がされていない。	楽しい食卓光景になるように工夫していく。	テーブルと椅子のバランスを考え、食事が見えるようにする他、利用者にとって心地よい音楽を流していく。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。